

# 地域との交流促進

## 在り方検討会やパンフ

あす初の市 菓子、野菜を販売



施設への理解を深めてもらうため、  
ひらた旭川荘が作ったパンフレット

の運営を引き継ぎ「県立おかもやま福祉の郷」

の名称で2003年に

開設。10年に現在の名

前になった。約4万7

千平方㍍の敷地には身

体障害者の自立訓練な

どに取り組む「のぞみ

寮」、知的障害児が暮

らす「わかくさ学園」

といつた7施設があ

り、3～76歳の約20

0人が利用している。

施設の老朽化を踏ま

え、昨年10月に将来像

検討会が発足。20～40

真付きで紹介してい

る。2千部を作り、8

重行総括施設長は「外

部との交流が増えれば

取り調査などをし、今

後の施設の在り方や求

められるサービスにつ

いて考えている。

検討を重ねる中で、

まずは施設の存在や役

割を知つてもらおう

に開催。11月以降も月

1回のペースで開き、

地域の人たちとの交流

を促進に役立てる。

ひらた旭川荘の田中

（小若菜美）

代の職員10人が中心となり、施設周辺で聞きたく、取り調査などをし、今後も施設の在り方や求められるサービスについて考えている。

ひらたの市は22日午後1時半～午後1時半に開催。11月以降も月1回のペースで開き、地域の人たちとの交流を促進に役立てる。

ひらた旭川荘の田中（小若菜美）

重行総括施設長は「外月から近くの小中学校部との交流が増えれば障害者への理解が深まる。自然豊かな空間なので、散歩などで気軽に足を運んでもらいたい」と話す。

（086-805-3812）。

障害者支援施設ひらた旭川荘（岡山市北区平田）は、地域との共生を目指した取り組みを強化している。近い将来の建て替えを見込み、施設の在り方の検討会を開く。地域住民が求める施設像などを探るほか、紹介パンフレットを作成。22日には利用者が作った菓子や野菜などを販売する「ひらたの市」を荘内で初めて開く。ひらた旭川荘は、社

会福祉法人旭川荘（岡山市北区祇園）が県立総合社会福祉センター

で、昨年10月に将来像検討会が発足。20～40真付きで紹介していく

サクラや紅葉した力工デといつた敷地内の見どころなどを地図、写真付きで紹介していく。重行総括施設長は「外月から近くの小中学校部との交流が増えれば障害者への理解が深まる。自然豊かな空間なので、散歩などで気軽に足を運んでもらいたい」と話す。（小若菜美）